

水 野 千 里

番 號	書 名	著 譯 者	定 價	冊 數	頁 數	發 行 年 月 日	發 行 所
1.	未知の世界へ	大沼十太郎	¥2.80	1	592	大正13Ⅺ18	ア ル ス
2.	日本天文史料綜覧	神 田 茂	¥2.00	1	247	昭和10Ⅹ25	丸 善
3.	膨脹する宇宙	村 上 忠 敬	¥1.80	1	228	„ 11Ⅺ18	恒 星 社
4.	天文・物理觀 學家の自然觀	三 枝 博 音	¥1.50	1	403	„ 11Ⅺ20	第 一 書 房
5.	日食と月食	鈴 木 敬 信	¥3.20	1	358	„ 11Ⅺ16	恒 星 社
6.	日食の話	山 本 一 清	¥0.50	1	86	„ 11Ⅺ27	„
7.	天 文 筆 日本之星	野 尻 抱 影	¥1.50	1	354	„ 11Ⅺ10	研 究 社
8.	天 體 望 遠 鏡 の 作 り 方 と 觀 測 法	木 邊 成 麿	¥0.95	1	352	„ 11Ⅺ25	誠 文 堂 新 光 社
9.	圖 說 天 文 講 座	山 本 一 清	¥1.80	#1	307	„ 11Ⅹ23	厚生閣、恒星社
10.	„	„	¥1.80	#2	308	„ 11Ⅺ12	„
11.	久米榮左衛門翁と 天 文 學	„		1	14	„ 11Ⅺ7受附	
12.	山と天文常識	„	抜 刷	1	72	„ 11Ⅺ27	„
13.	理 科 年 表	東京天文臺	¥1.50	#13	414	„ 11Ⅺ10	丸 善
14.	日本天文學會要報	日本天文學會	¥0.70	#15	26	„ 10Ⅺ30	日本天文學會
15.	„	„	¥0.80	#16	52	„ 11Ⅺ20	„

— • — • — • — • — • × • — • — • — • — • —

2. **日本天文史料綜覽** 日本天文史料は 神田茂理學士が、我が國に於ける古代から足利時代に至る諸文獻に現はれた天文記録を年代順に原文を配列されたもので、其の項數約2700に及び大切な書物で定價 6 圓50銭である。この書に收められた天文記録の記事概要、文獻名、日本曆年月日、西曆年月日等を年代順に配列されたものが日本天文史料綜覽で、卷末には 470 餘種の引用書名索引があつて、初版は非賣品であつたが再版は賣品である。

3. 膨脹する宇宙 劍橋大學天文部長 Arthur Eddington氏の The Expanding Universe の譯書である。内容は第1章渦狀星雲の後退、第2章球狀空間、第3章膨脹する宇宙の様相、第4章宇宙と原子に別たれ、我が國に於ても膨脹宇宙論が問題にされて居る今日是非一讀すべきものである。

4. 日本哲學全書 第8卷第2部自然哲學「天文・物理學家の自然觀」の目次を見ると、1. 天文圖解、井口常範。2. 天文義論、西川如見。3. 玄語、三浦梅園。4. 歸山錄、三浦梅園。5. 星術本原太陽窮理了解新制天地二球用法記、本木良永。6. 綴術となつて居る。支那天文の一斑を知るのによい。

5. 日食と月食 著者の序文中に「日食の正體を確に知りもしないで、日食を觀に行つても興味は薄いに違ひない。こゝに於て日食について正しい知識を與へてくれる書物が必要となる。本書はこの目的に叶ふやうに作られたもので、一般の人々に日食とは如何なるものか、如何に觀測すべきか、どれ程重要なものか等の事柄を知らせるのを目的としてゐる。従つて理論は述べてないが、讀者諸彦が中學程度の物理學の知識を有するものとして述べてゐる」とある様に専門家の爲めに著はされたものでなく、アマチュア向きのものとはいへ、第13章「日食の計算」は圖解法であるから數式を用ひて計算した時ほど精密には出来ないとはいへ、算定した時刻には10秒乃至20秒程度の誤差はあるが、豫報の目的には之れで十分である。

6. 日食の話 昭和11年2月大阪に於ける「日食講習會」の講演筆記で、北海道皆既日食前に多く讀まれたものである。今後の參考にもなる。

7. 天文隨筆日本の星 「天界」1月號新刊紹介欄を御覽下さい。

8. 天體望遠鏡の作り方と觀測法 模型製作ニユーハンドブック第6編として現はれたのが本書である。花山天文臺で多年望遠鏡の製作に従事して居られる著者が體驗に基き述べられたものである。この書を手引として製作されるならば、さぞ立派なものが出來上ることを保證することが出来る。書き方が親切である。第7章經驗記事、第8章經驗者の爲めにの如きは、初めて製作に従事せらるゝ方々も、經驗家も參考になることが多いと思ふ。第9章望遠鏡の發達史は面白く讀まれる。

9. 10. 圖説天文講座 第1巻天球と星座, 第2巻太陽日食と月食が發刊された。第3巻から第8巻迄は昭和12年に完結する筈である。

分擔して執筆し, それを山本博士が一々眼を通し訂正, 増補されるものでアマチュア計りでなく, 専門家にも参考になるところがある。アマチュアは必ず座右に備へねばならぬ良書である。その内容は第1巻天球と星の運行, 山本一清, 星座の歴史と境界線, 村上忠敬, 肉眼に見える毎月の星座案内, 水野千里, 双眼鏡, 小望遠鏡星座見學, 野尻抱影, 第2巻太陽系の構成, 山本一清, 太陽の本體, 竹内時男, 太陽黒點と其觀測法, 三澤勝衛, 日食月食掩蔽, 柴田淑次, 太陽が地球に及ぼす影響, 森川光郎, 黃道光と對日照, 荒木健兒である。

11. 久米榮左衛門翁と天文學 本篇は 昭和10年12月18日 香川縣坂出町鎌田共濟會の社會教育館に於ける山本博士の講演の概要筆記で, 我が祖先の科學に對する能力, 支那朝鮮古代の天文學, 我が國の天文學, 久米先生の學問系統, 天文學の使命, 望遠鏡の發明と天文學の進歩, 宇宙の廣大無邊, 天文學の眞の目的, 精密科學の進歩に伴ふ新發見等に就いて記してある。

12. 山と天文常識 山岳講座の一部分である。第1章緒言, 第2章山と望遠鏡, 第3章星座, 第4章實用の天文學, 第5章山で楽しむ天體觀測に別けてある。

13. 理科年表 (昭和12年) 天文年鑑共に 年々發刊され, 天文家の必携書である。

14. 15. 日本天文學會要報 第15號第16號。第15號は流星, 新星に關する觀測報告, 第16號は1933年第I彗星 (Peltier) の軌道外6篇で, 専門家用である。

大阪市のプラネタリウムは

來る3月4日東久邇宮殿下の行啓を仰ぎ, 同3月13日より一般社會人士に公開する筈と聞く。